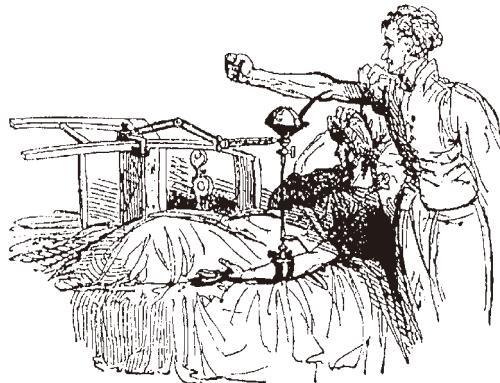


第4版の序

初版「よくわかる輸血学」は、輸血学の教育と資格制度の確立にご尽力された遠山博先生、前田平生先生、大戸仁先生のご指導により2005年に出版されました。本書は2018年の改訂第3版までの累計販売数が医学書としては異例の1万部に達しました。医学生から看護師、そして医師が備えるべき知識をわかりやすく解説するというコンセプトは維持したまま、今回は「目から鱗」となるような内容も加えて、新版を送り出すことになりました。予想問題数も大幅に増やしてCBTや各種認定資格試験の対策としても使えるようになっています。ぜひご活用ください。

名医オスラー博士の言葉を少し変えて、ここに記しておきます。
「輸血の本を1冊も読まずに輸血を実施することは海図を見ずに航海するより危い」



Blundell, J. : Lacet, 12 : 321-352, 1829

2026年1月

順天堂大学医学部附属浦安病院 輸血室長 先任准教授
大久保光夫

初版の序

血液型の発見から100年余り、HLAの発見からもうすぐ50年になります。その間、輸血・移植医療に関する知識、経験や教訓が集積してきました。21世紀に入り、私達は世界で最も安全といわれている国内献血の血液を使い、輸血の恩恵を受けています。

ところが、医学全体が専門化しその内容も膨大なため、全診療科に必須のはずの輸血の基本的知識がおろそかにされる可能性が出てきました。また、研修医や学生を指導している際に、輸血について“わかりやすく”書かれた教科書がほとんどないことに、私達は気付きました。そこで、“チャート（図表）”を用いることで、スライドを見ながら講義を受けているかのようにわかりやすく輸血の知識を習得できる本を作製することにいたしました。ページをめくっていただければわかるように、左ページに最重要ポイントをまとめたチャート、右ページにその解説を載せています。これにより複雑で広範囲な輸血学の知識がすっきりと整理できると思います。

また、この本には、“チャート（図表）”以外にもいくつかの工夫があります。まず、研修医や医学部学生のみならず、看護学生や臨床検査学科の学生の皆さんにも利用していただけるように、わかりやすい言葉で解説しました。また、読者の皆さんがあつとも必要としている「輸血の実際」と「輸血事故防止」についての記述を本の最初で説明し、そのかわり従来の教科書では冒頭に書かれていた「輸血の歴史」や「血液の分子構造」は気軽に読んでいただけるようにコラムとして配置しました。さらに、各科における具体的な臨床例題やセルフアセスメントとしての知識確認問題も加えました。この本を読むことで、輸血学の基本的な知識がおよそ半日で頭の中に整理できると思います。

輸血過誤（異型輸血）や不適切な輸血が行われると、患者様に不幸を招き、医師と病院の責任が厳しく問われます。この本に書かれている内容は、輸血医療の最小限の知識です。多くの皆さんにこの本をご利用いただくことにより、患者様にとっても医療従事者にとっても安全な輸血が行われることを望みます。

2005年1月

大久保光夫・前田平生